

# 榆陵に月は

(昭和四十七年寮歌)

加藤秀弘 作歌  
矢野哲憲 作曲

一

榆陵に月は懸れども  
星霜深き原始林暗し  
藜藿ゆらぐ風有れど  
思い分かつたん術も無し

二

天空破る落雷はあれど  
そびゆる聳天樹は堂々と  
慟哭の声上げらんと  
意気揺盪の時は今

三

銀晶ふるう雪原なれども  
変らぬ沈黙奇しきかな  
黄鶴消えて姿無し  
蘇える春まだ遠く

四

鐘の音遠く聞えども  
雑踏の声さざめきの  
辛夷花咲く黎明よ  
石狩の野今何処

五

無尽の星を揚げども  
天に無双の北斗星  
白亜の城に覚醒し  
永遠の生命を誦わなん

六

未明に懸る白き月  
夢見し思う北溟の海  
憧れ来しは北溟の峰  
呼々我前途の行く果は